



平成 29 年 4 月 13 日
10 時 00 分 発表
九州地方整備局

平成 28 年熊本地震から 1 年 ～復旧の歩みをまとめました～ ＜河川関係事業＞

九州地方整備局河川部が取り組んできた熊本地震からの復旧のうち、①緑川・白川河川堤防、②阿蘇大橋地区、③立野ダム建設予定地周辺の復旧について、1 年間の復旧の歩みをまとめました。

① 緑川・白川河川堤防の復旧

- ・軽微な変状箇所は、直ちに応急復旧を実施しました。(平成 28 年 4 月中に完了)
- ・変状が大きかった緑川の 11 箇所については、緊急復旧工事を 24 時間態勢で行い、梅雨期に備え最低限の堤防機能を確保しました。(平成 28 年 5 月 9 日完了)
- ・本復旧工事については、専門家からなる緑川・白川堤防調査委員会に諮り、速やかに工法を決定し、平成 28 年 8 月に着手しました。(52 箇所、復旧延長約 45 km)
- ・平成 29 年 3 月末時点の進捗状況は、緑川約 70%、白川約 75%です。
- ・平成 29 年の梅雨期前までの完了を目標に取り組んでいます。

② 阿蘇大橋地区の復旧

- ・平成 28 年 5 月 5 日、直轄砂防災害関連緊急事業でいち早く復旧に着手しました。
- ・現場では、安全に工事を進めるため「無人化施工」を採用し、現場から 1km 離れた操作室から最大 14 台の無人化建設機械を遠隔操作しました。
- ・平成 28 年 12 月末には、安全施工に必要な対策を完了させ、崩壊地内で一部有人化施工を可能としました。
- ・平成 29 年度は、新たに特定緊急砂防事業として恒久対策に着手します。

③ 立野ダム建設予定地周辺の復旧

- ・平成 28 年 4 月にアプローチ道路の復旧に着手しました。
- ・平成 28 年 7 月に「立野ダム建設に係る技術委員会」を設置し、熊本地震後も立野ダム建設が技術的に十分可能であることを確認しました。
- ・平成 28 年 9 月以降、熊本県知事、沿川首長・議会議員・区長、学識者など約 200 名の方の現地視察や、技術委員会概要版(約 1400 部配布)、パネル展(6 箇所)の開催など、立野ダムの理解を深めて頂くための取り組みを実施しています。
- ・平成 29 年度本体工事発注に向け、復旧工事を促進しています。

＜問い合わせ先＞

九州地方整備局

河川部 河川計画課長

TEL 092-471-6331 (代表)

TEL 092-476-3523 (河川計画課 直通)

坂井 佑介

熊本地震から 1 年間の取組

- 1-①. 緑川・白川河川堤防の復旧 . . . P1
- 1-②. ソフト対策等 . . . P12
- 2. 阿蘇大橋地区の復旧 . . . P18
- 3-①. 立野ダム建設予定地周辺の被災状況 . . . P25
- 3-②. 立野ダム建設予定地周辺の復旧状況 . . . P27
- 3-③. 熊本地震後の立野ダム建設に係る技術的な確認・評価 . . . P34
- 3-④. 立野ダムの理解を深めて頂く取り組み . . . P38

1-①. 緑川・白川河川堤防の復旧

地震発生からの河川堤防の復旧ステップ

STEP1

地震発生直後

- 緊急点検
- 応急対策

地震発生直後より緊急点検、
応急対策を実施。



点検状況



応急対策完了

STEP2

梅雨期前

- 緊急的な復旧工事

5月9日までに全11箇所を完了。

- 早期警戒体制の構築

4月28日から警戒開始。

緊急的な復旧工事完了



緑川左岸9k400付近

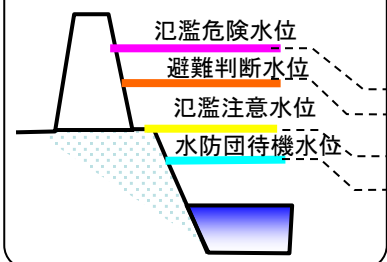
堤防の変状



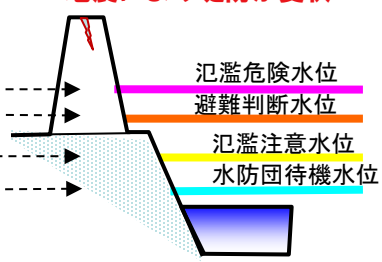
施工完了(H28.4.30)

基準水位引き下げによる早期警戒（継続中）

【変状前の基準水位】



地震により堤防が変状



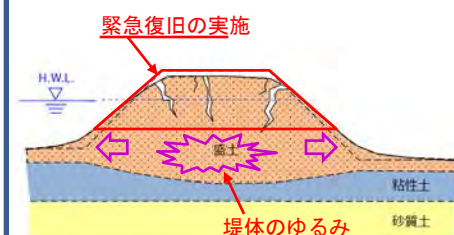
STEP3

事業決定後

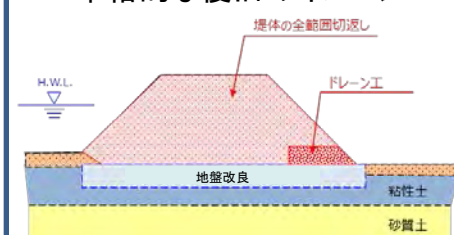
- 本格的な復旧

平成29年梅雨期前までに復旧工事の
完了を目指す

堤体のゆるみが多い場合



本格的な復旧のイメージ



堤体の変状



緑川右岸 8 k 9 0 0 付近（熊本市）

堤体の変状



緑川左岸 9 k 3 0 0 付近（熊本市）

堤体の変状



緑川左岸 8 k 4 0 0 付近（熊本市）

堤体の変状



緑川右岸 1 1 k 8 0 0 付近（嘉島町）

被災堤防の応急対策

緑川水系、白川水系及び菊池川水系の172箇所の堤防等の被災のうち、比較的変状の小さな箇所については、ひび割れの補修などの応急対策を実施しました。

(白川 左岸8k700m : 熊本市)



(白川 左岸13k000m : 熊本市)



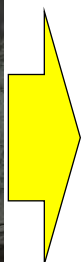
(白川 右岸9k400m : 熊本市)



(緑川 左岸16k400m : 熊本市)



(白川 左岸11k500m : 熊本市)



(緑川 右岸23k000m : 甲佐町)



緊急復旧を概ね3週間で達成

地震により、比較的変状が大きかった11箇所について、24時間態勢で緊急的な復旧工事を実施し、平成28年5月9日までに完了しました。

《緊急復旧前》4/16（緑川右岸9k200）



《緊急復旧後》4/30（緑川右岸9k200）



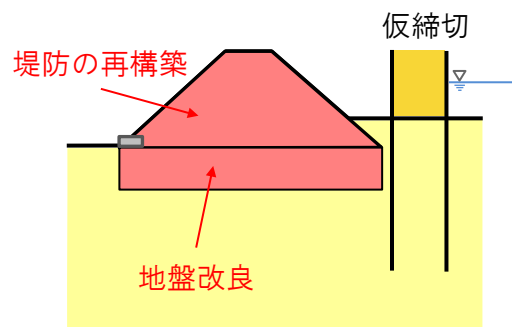
早期復旧のため24時間態勢で施工



緑川堤防の本復旧

緊急復旧後、堤防の再構築や液状化対策等の本格的な復旧工事に平成28年8月から着手しました。平成29年3月末時点で、緑川では約70%の進捗率であり、平成29年の梅雨期までに完成させる予定です。

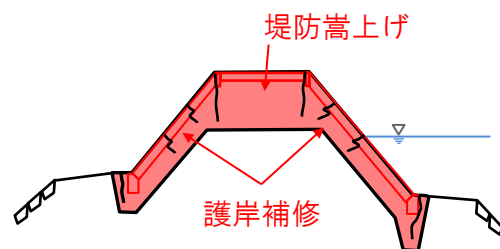
堤防の再構築（上杉地区）



仮締切りが完了し、変状が生じた堤防の撤去、地盤改良、堤防の再構築を実施中。



堤防の嵩上げ（御船地区）



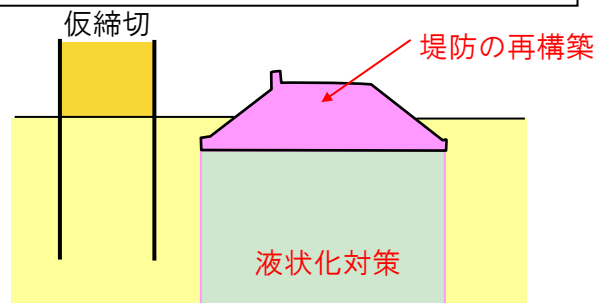
堤体の変状箇所を部分的に掘削し、堤防の嵩上げ盛土を実施中。



白川堤防の本復旧

緊急復旧後、堤防の再構築や液状化対策等の本格的な復旧工事に平成28年8月から着手しました。平成29年3月末時点で、白川では約75%の進捗率であり、平成29年の梅雨期までに完成させる予定です。

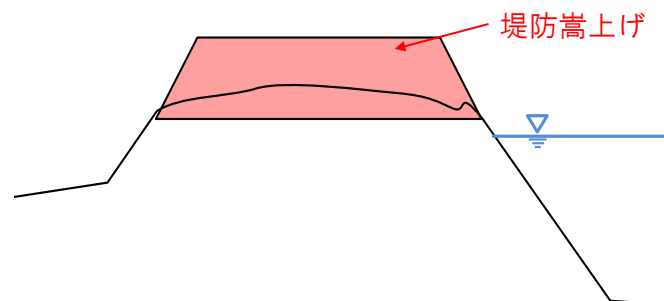
堤防の再構築（蓮台寺地区）



仮締切りが完了し、変状が生じた堤防の撤去、液状化対策、堤防の再構築を実施中。



堤防の嵩上げ（沖新地区）



天端のアスファルトを撤去し、堤防の嵩上げ盛土完了。



加速する堤防復旧

変状が発生した堤防の再構築を実施中
(接続ブロック及び盛土)



緑川-上杉地区 (H29/4/4)

変状が発生した堤防の再構築を実施中
(張芝)



緑川-御船地区 (H29/3/17)

変状が発生した堤防の再構築
を実施中 (地盤改良及び盛土)



白川-連台寺地区 (H29/3/17)

変状が発生した堤防の再構築を実施中
(地盤改良及び盛土)



緑川-下仲間地区 (H29/3/17)

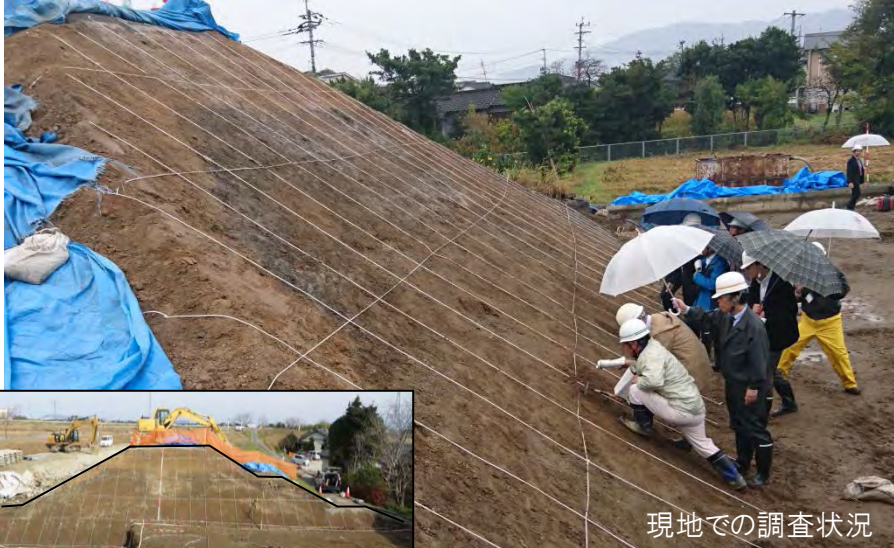
本復旧工事については専門家からなる「緑川・白川堤防調査委員会」を開催し、本地震により被害を受けた堤防等の河川管理施設の変状原因を究明及び変状に応じた復旧工法を検討しました。



堤防調査委員会開催状況

＜堤防調査委員会の開催日と議事内容＞

	開催日	議事内容
第1回	平成28年 5月 6日	・平成28年熊本地震の概要と河川の変状概要等 ・堤防等の変状形態 ・耐震性能照査の考え方と今回地震での変状 ・対策の考え方 ・地質等調査計画 ・ソフト対策の取り組み
第2回	平成28年 6月10日	・地震外力の分布と変状の関係 ・本復旧の考え方 ・地質等調査の状況
第3回	平成28年 11月14日	・堤防開削箇所の現地調査 ・対策工法の確認 ・今後のソフト対策
第4回	平成29年 3月 9日	・過去の委員会等での主な意見とその対応 ・委員会報告書(案)について



現地での調査状況

1-②. ソフト対策等

地震後の河川管理体制の強化①

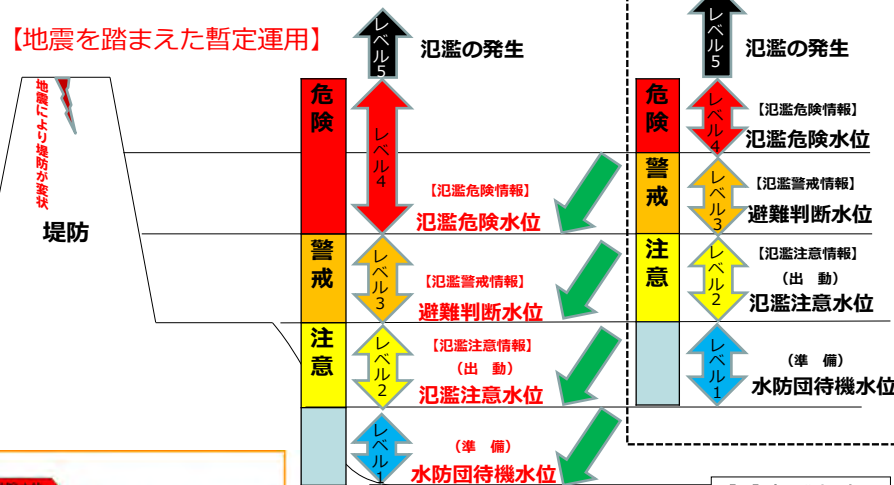
早めの水防活動や避難に資するため、平成28年4月28日から水防警報及び洪水予報の基準水位を暫定的に引き下げました。また、堤防等の変状を迅速に察知するため、平常時の巡視頻度を増やすとともに、出水時の巡視を通常よりも早い段階で開始するなど、監視体制を強化しました。

■河川の巡視体制強化

項目	これまで	当面
洪水時巡視の出動基準	氾濫注意水位に達したとき	水防団待機水位に達したとき
一定規模以上の降雨時	—	大雨警報発令時
平常時巡視の巡視頻度	週2回	隔日

■水防警報、洪水予報の基準水位の暫定的な引き下げ 【4月28日から】

【地震を踏まえた暫定運用】



氾濫危険水位
市町村長による避難勧告等の発令判断の目安となる水位

避難判断水位
市町村長による避難準備情報の発令判断の目安となる水位

氾濫注意水位
水防団が出動して河川の警戒にあたる水位

水防団待機水位
水防団が水防活動の準備を始める水位



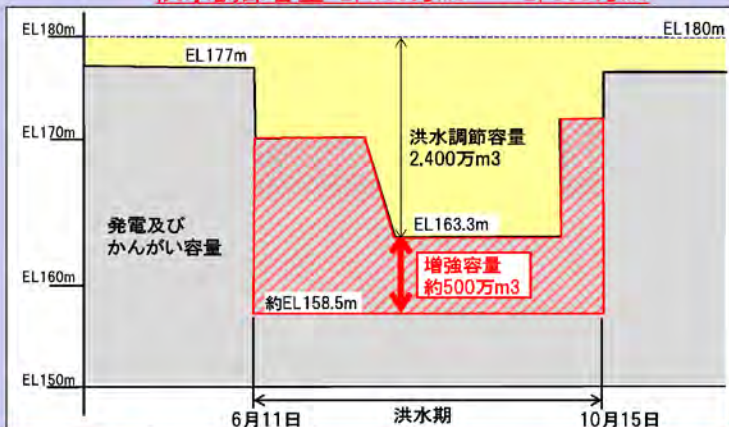
地震後の河川管理体制の強化②

河川の負担軽減を目的に、緑川ダムでより多くの洪水を貯留するため暫定運用を実施しています。
特に、平成28年6月20日より21日未明にかけて熊本県内では、時間雨量100mmを超える大雨となったことから、6月21日0時55分より、緑川ダムへ流れてくる水量を緑川ダムに約920万 m^3 （25mプール25,500杯分）を貯めて、ダム下流へ流す水量を最大64%低減させる操作（洪水調節）を実施しました。

■緑川ダムの暫定運用

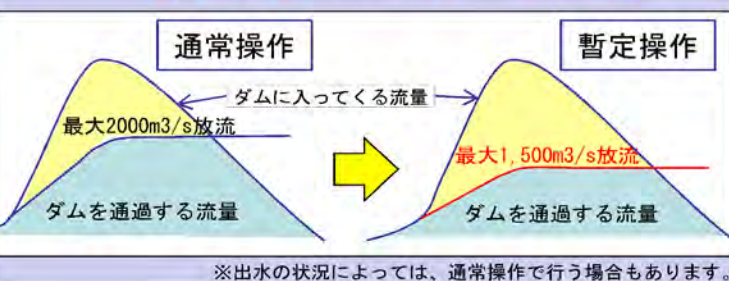
対策1 洪水時により多くの洪水を貯留するため、洪水調節容量を、約500万 m^3 増強します。この約500万 m^3 は、かんがい利用者のご理解とご協力のもと暫定的に活用するものです。

洪水調節容量 2,400万 m^3 → 2,900万 m^3

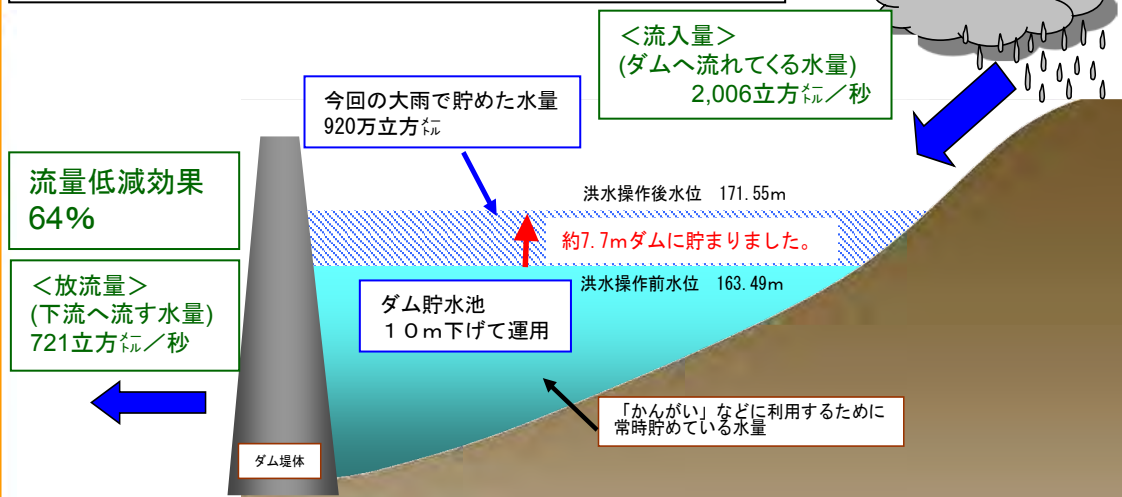


対策2 緑川ダム下流の状況を踏まえダムからの最大放流量を引き下げ、下流河川の負担軽減を図ります。

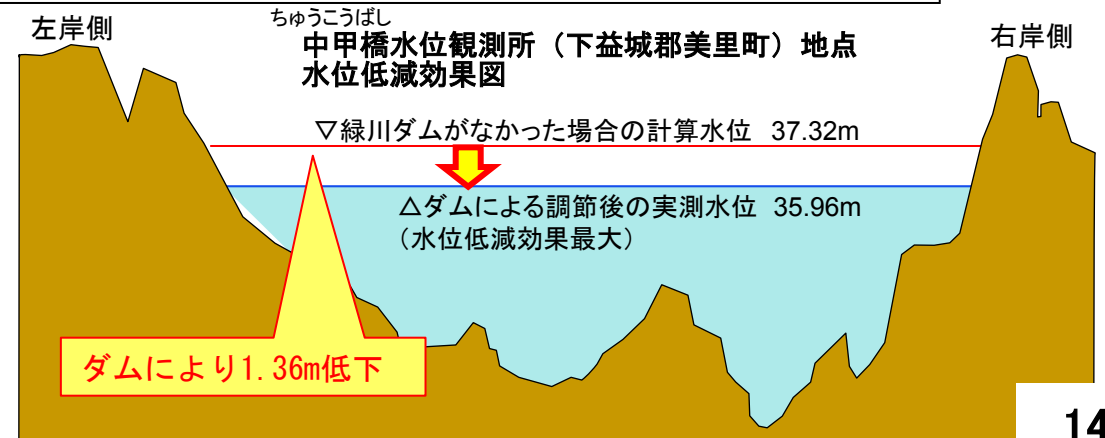
最大放流量 2,000 m^3/s → 1,500 m^3/s



○緑川ダムの洪水操作



○緑川ダムにおける水位低減効果（平成28年6月20日）



地震後の河川管理体制の強化③

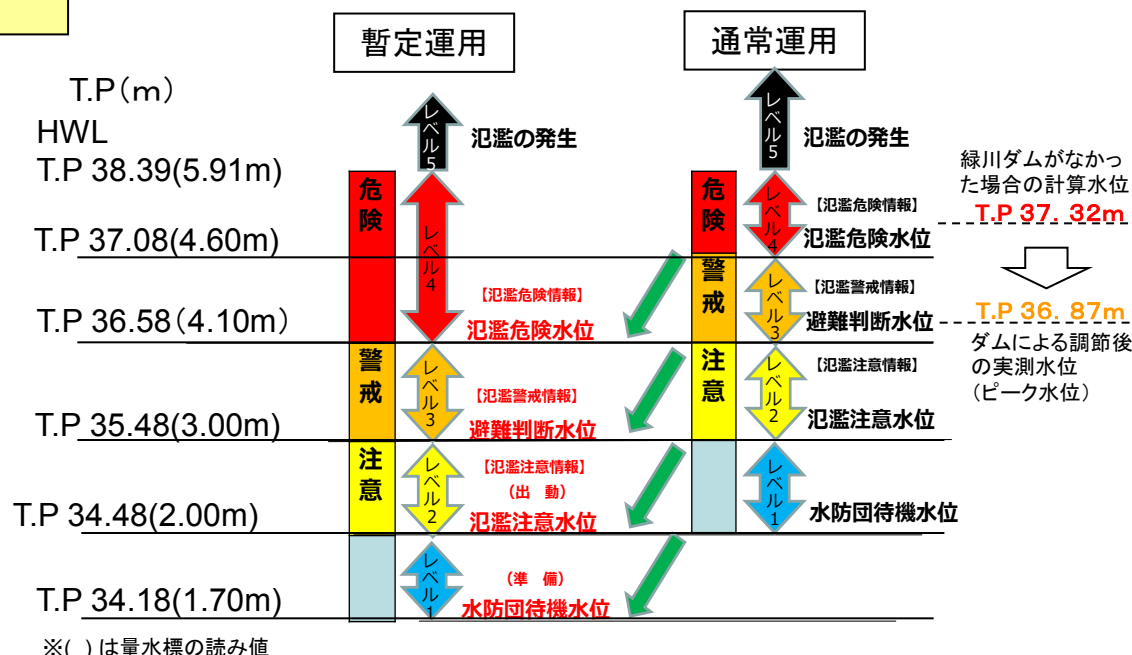
○堤防の復旧に併せ洪水を安全に流下

堤防の変状が発生した田口橋下流においても、ダムによる洪水調節により、39cmの河川水位を低下させる効果があり、緊急的な復旧工事と併せてより安全に洪水を流下させることが可能となりました。

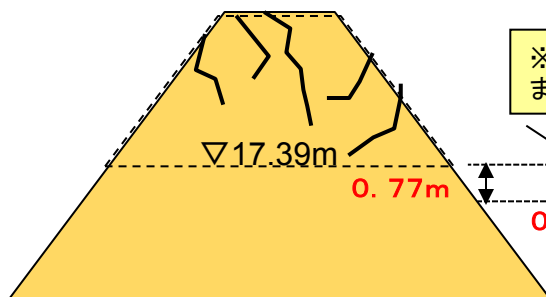


○水位低減効果と基準水位との関係

水防警報・洪水予報の基準水位の通常運用において、基準地点中甲橋地点では、「氾濫危険水位」を「避難判断水位」まで引き下げる効果がありました。



被災直後の堤防

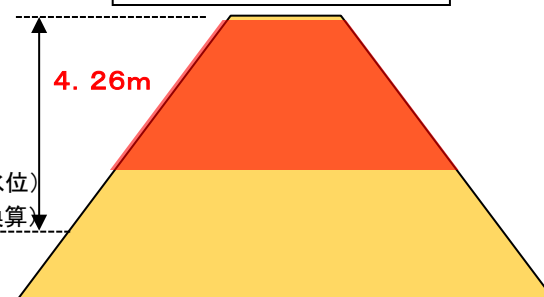


田口橋下流(18.4km)地点

※堤防に入った亀裂の一番深い位置から0.77mまで迫っていたことが想定される。

▽16.62 (緑川ダムがなかった場合の計算水位)
0.39m ↓ ▽16.23 (実際の水位: 田口橋下流地点に換算)

緊急復旧後の堤防



※堤防の緊急復旧及びダムによる水位低下により、堤防天端から4.26m下を洪水が流れることとなり、より安全になりました。

※ダムがない場合の河川水位やその軽減量等、本発表における数値は速報値です。最終的に整理される数値とは異なる場合があります。

川に流れ込む土砂・流木への対応

白川流域で大規模な斜面崩落等が発生したことにより、多量の流木と土砂が流れ込みました。堤防被災箇所との復旧と併せて河道内に流入した流木の撤去と土砂の撤去等を緊急的に実施しました。（平成29年4月7日時点：流木約7千空 m^3 、土砂約14万 m^3 を撤去済）

白川橋下流付近 堆積後（梅雨の大雨による堆積）→撤去後の作業状況 →撤去後の状況

堆積後（H28. 7. 4）



作業状況



撤去後（H28. 9. 20）



大甲橋 流木堆積状況→撤去状況（夜間作業）→撤去後の状況

堆積後（H28. 6. 30）



作業状況



撤去後（H28. 7. 7）



復旧イベントの開催

熊本地震からの「緑川流域の復興」を祈念し、流域で活躍する河川協力団体、行政等が連携・協力し、平成28年10月2日に「復興イベント」を開催しました。
今年度は、4月29日に実施する予定です。

～緑川流域をまもり・つなごう！～
「緑川の日」流域復興イベント

開催日: **4月29日(土)**
(小雨開催)
時 間: **11:00～15:00**
場 所: **嘉島町大字上柳子高田
高田みんなの広場
寄町橋下流右岸
(河川敷地)
※駐車場有**

熊本地震で被災した緑川堤防の災害復旧工事が完成接近です。
さらなる「緑川流域の復興」を祈念し、流域で活動する河川協力団体（NPO法人・住民団体）
や流域市町村等が連携・協力し、復興イベントを開催します。

オープニング
11:00～11:20
○緑川流域復興宣言
○緑川堤防復旧工事の紹介

緑川流域サミット
11:20～12:00
○緑川流域の市長・町長と
住民が、流域の課題や付
加価値について考えます。

ステージイベント (12:00～15:00)
○くまモン様 (12:00～12:30)
○平成音楽大学
○私立緑西高等学校 ダンス部
○熊本県立熊本工業高等学校 吹奏楽部

復興イベント
11:00～15:00
○緑川うまいもの市・物産展
○Eポート体験
○災害・防災パネル展示
○建設機械ふれあい体験
○排水ポンプ車実演
○雷雨体験
○緑川おさかな水泳館
○ステージイベント等

会場位置図

※会場、イベントの場所(山形)は、実際にある場所が
ありませんので、あらかじめのご確認ください。

※会場、緑川流域の復興を祈念し、流域で活動する河川協力団体（NPO法人・住民団体）、流域市町村等が連携・協力し、復興イベントを開催します。

お問い合わせ先: 国土交通省 熊本河川国庫建設事務所 緑川第一課
TEL (096) 338-2111

緑川復興イベントの開催状況(H28.10.2)



排水ポンプ車による洪水時の歩行訓練



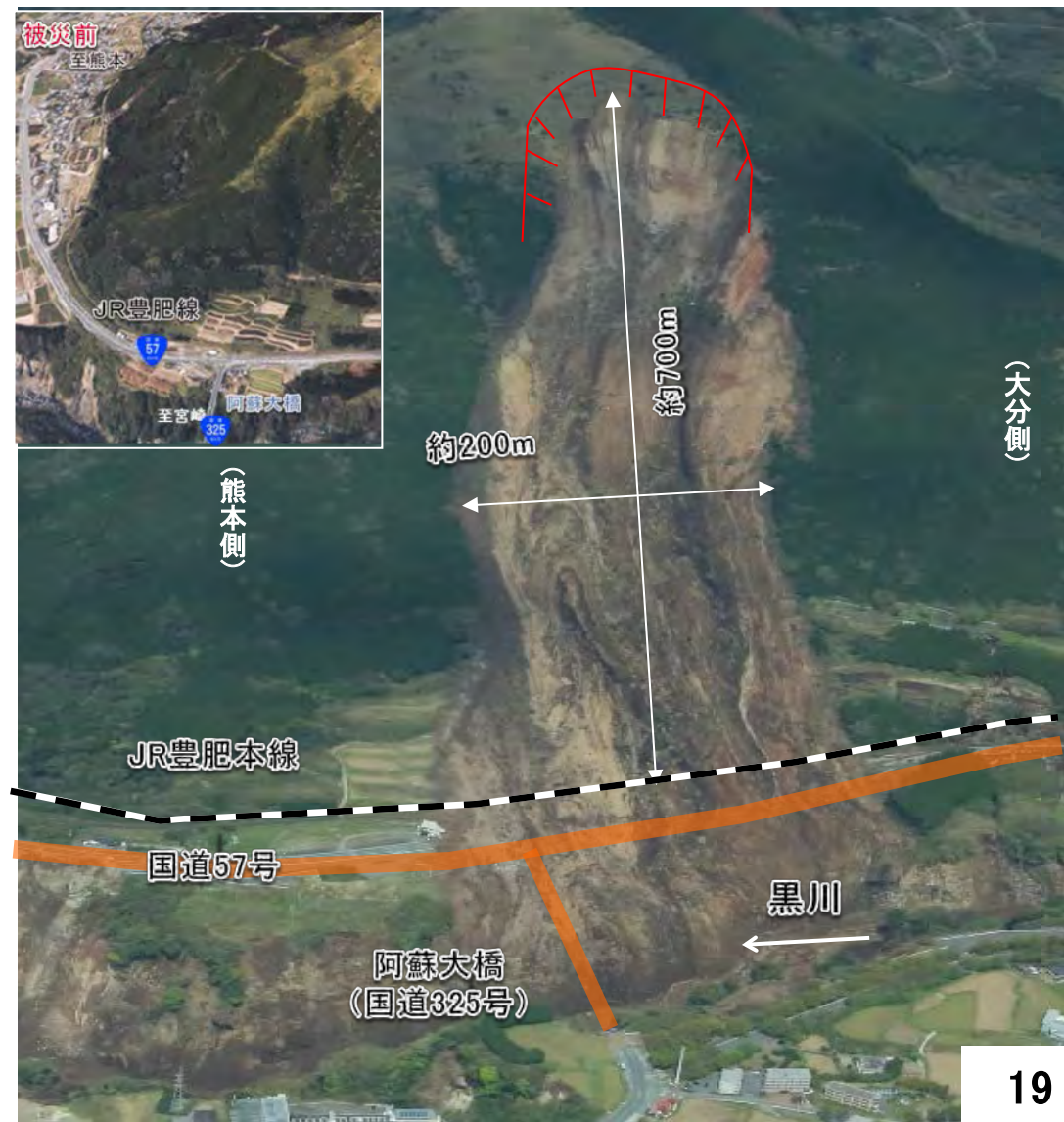
流域のうまいもの市に舌鼓



2. 阿蘇大橋地区の復旧

○平成28年熊本地震により発生した阿蘇大橋地区の大規模な斜面崩壊（約50万m3）について、二次災害を防ぐため、国直轄による緊急的な復旧工事に早期に着手しました。
（平成28年5月5日）

- <概要>
- 地先名: 熊本県阿蘇郡南阿蘇村 立野
 - 発災日: 平成28年4月16日(平成28年熊本地震)
 - 被害状況: 国道57号、国道325号、JR豊肥線
 - 斜面崩壊規模:
崩壊長 約700m、崩壊幅約200m
崩壊土砂量 約50万m3
 - 主な対策工: 土留盛土工、法面对策工
 - 工事着手日: 平成28年5月5日



梅雨の長雨と阿蘇地域特有の“黒ボク”との戦い

- 工事着手時は降雨や霧が多く、阿蘇地域特有の“黒ボク”によって稼働率が約5割以下の進捗。
- 梅雨明け後は天候に恵まれ稼働率は約8割に回復しました。



霧による視界不良（崩壊地を望む）



降雨によって重機足場が泥濘化し作業が難航

	日付	5/5~ 5/31	6月	7月	8月	9月	10月	計
不稼働日	歴日数	27	30	31	31	30	31	180
	降雨	3	12	7	0	9	2	33
	霧	4	3	0	0	0	2	9
	降雨後の足場不良	3	4	2	0	0	1	10
	その他	2	0	0	0	0	0	2
	計	12	19	9	0	9	5	54
作業日		15	11	22	31	21	26	126

26日／57日=46%
稼働率は5割以下

7月以降の稼働率は
約8割



重機足場を地盤改良しながら施工

土留盛土の設置（5/23着手、10/22完成）

- 崩壊斜面の上部に多くの亀裂が存在し、余震及び降雨により容易に崩落する危険性があることから、崩壊地内は無人化施工を実施。
- 施工現場から約1km離れた操作室から遠隔操作で安全に施工。
- 土留盛土工（上段、下段）の設置によって、盛土より斜面下部の安全を図る。

無人化施工

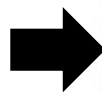
無人化建設機械は最大で14台が稼働！



無人化施工操作室の状況



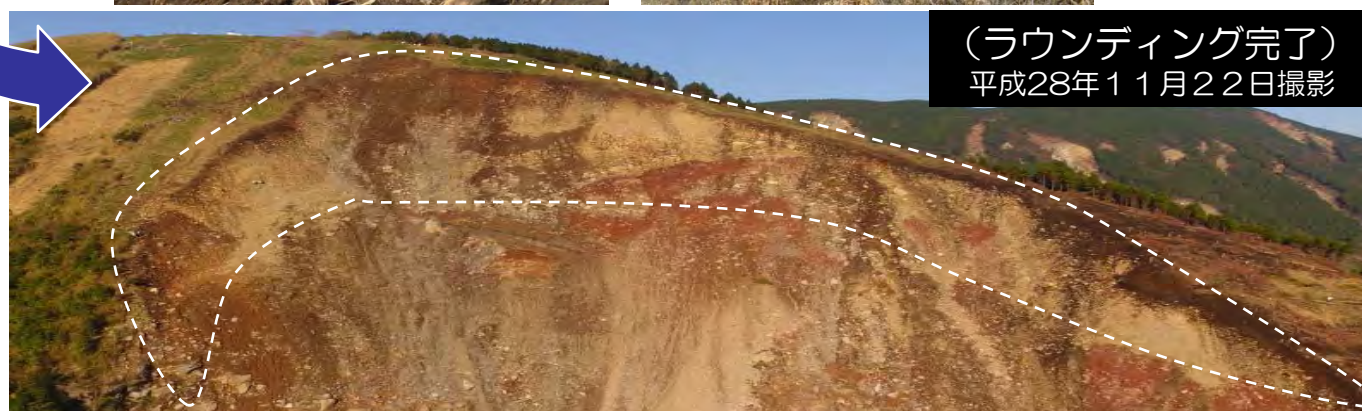
土留盛土工の設置



○特に緊急性の高い急崖部の不安定な表層や落石発生源となりそうな転石・浮石をラウンディングによって除去。



施工は高所法面掘削機によって遠隔操作で安全に実施



有人作業のための作業環境確保に係る対策（12/26完了）

- 早期復旧に向け学識経験者等による「阿蘇大橋地区復旧技術検討会」を平成28年5月10日に設置。平成28年度内に4回検討会を開催し、復旧工法や安全対策を審議。
- 12月26日に検討会委員による「斜面下部の安全施工に係る作業環境現地確認」を実施し、安全対策の実施・完了を確認。これにより、平成29年1月から斜面下部での有人作業に着手。

作業エリア平面図

第4回 阿蘇大橋地区復旧技術検討会(12月6日)



現地確認の状況(12月26日)



H29年1月 斜面下部から有人作業に着手



地質調査状況



排水工の整備状況



○平成29年度より、これまでの緊急復旧に引き続き、新たに特定緊急砂防事業において斜面の恒久対策を実施。

恒久対策では、斜面の侵食、風化、落石などを防ぎ
斜面の安定化を図る。

フォトモンタージュ



恒久対策完了イメージ（植生回復後）

＜現況斜面の状況＞

崩壊地の表層は、黒ボク、風化岩が露出している



＜恒久対策＞

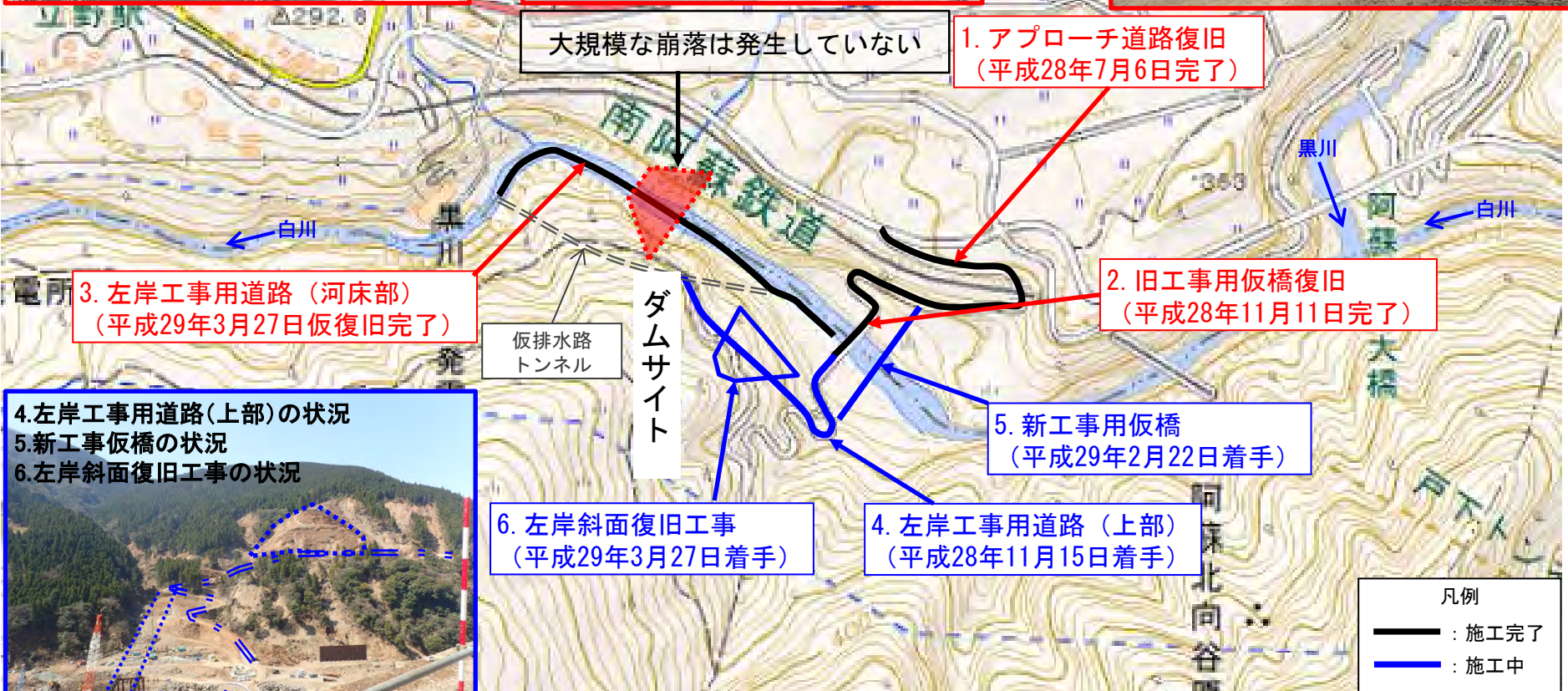
対策イメージ



3-①.立野ダム建設予定地周辺の 被災状況

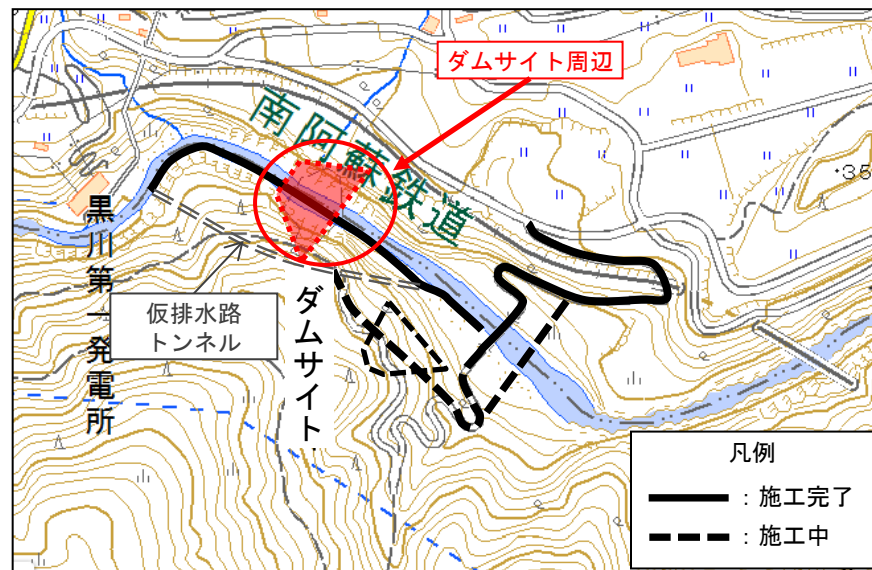


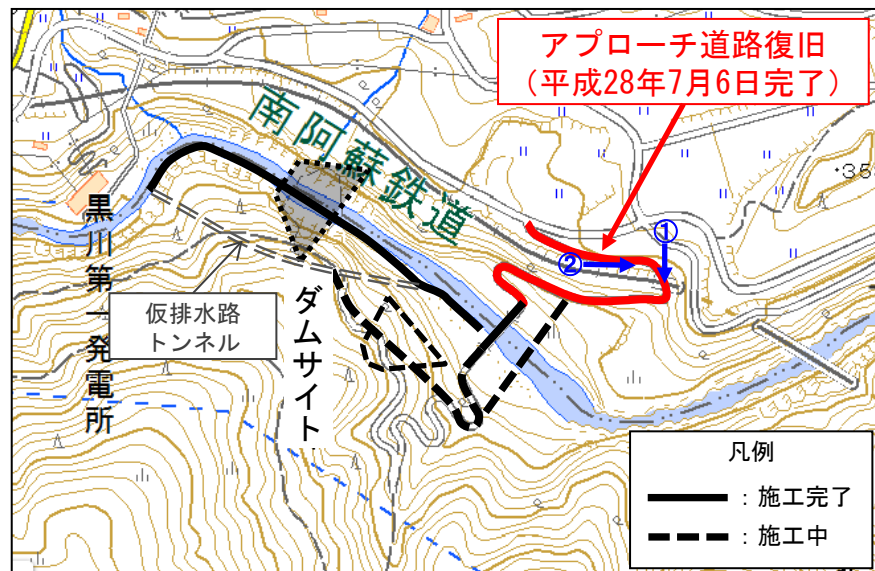
3-②.立野ダム建設予定地周辺の 復旧状況



立野ダム建設予定地周辺の復旧状況【ダムサイト周辺】

- 熊本地震により、ダムサイト周辺では、表層の土砂や石のはがれ落ちはあるが、大規模な崩落は発生していない。
- その後の平成28年6月の出水でもダムサイト周辺では大規模な崩落は発生していない。





①アプローチ道路の被災状況

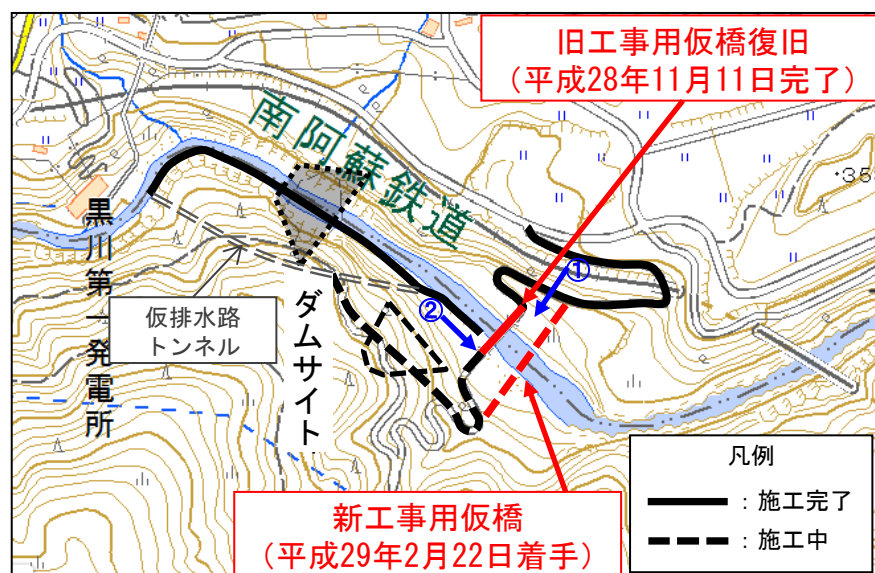


②アプローチ道路の復旧状況 (H29. 4)



①アプローチ道路の復旧状況 (H29. 4)

立野ダム建設予定地周辺の復旧状況【新・旧工事用仮橋】

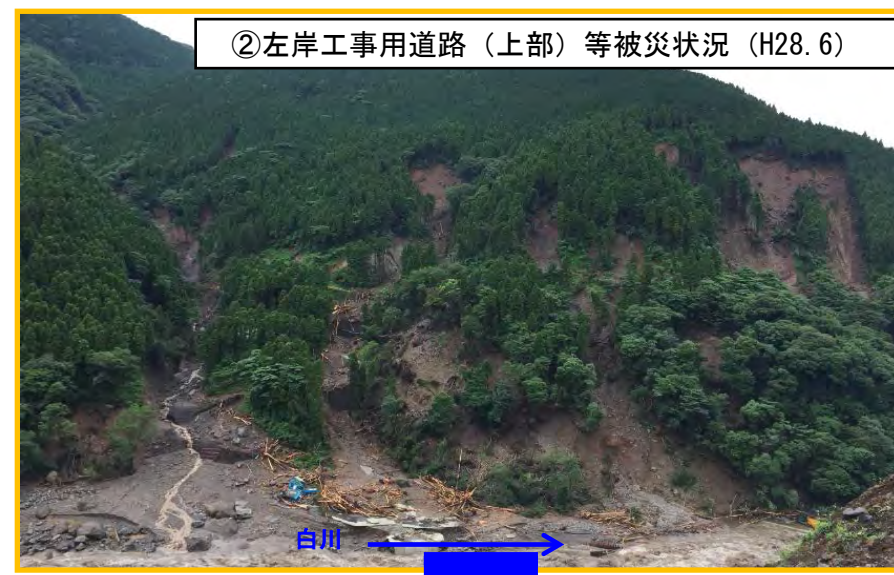
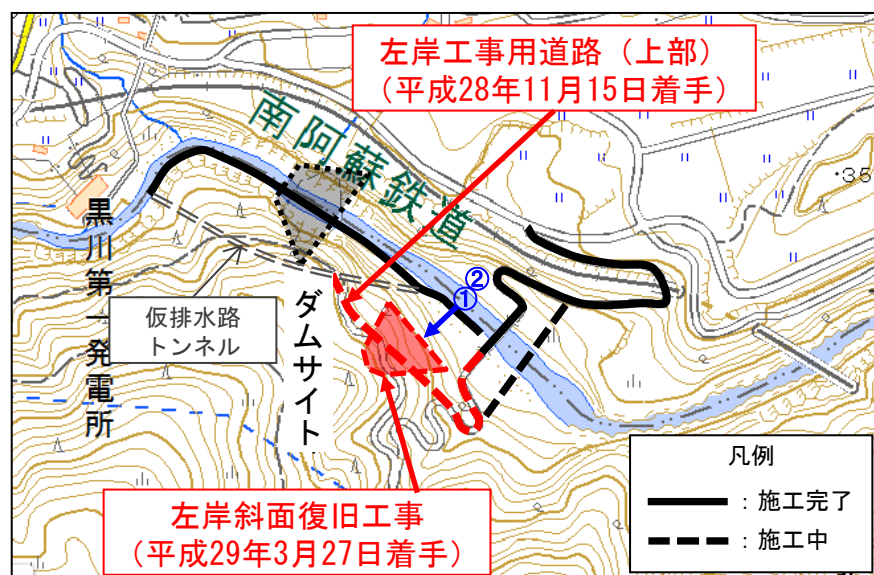


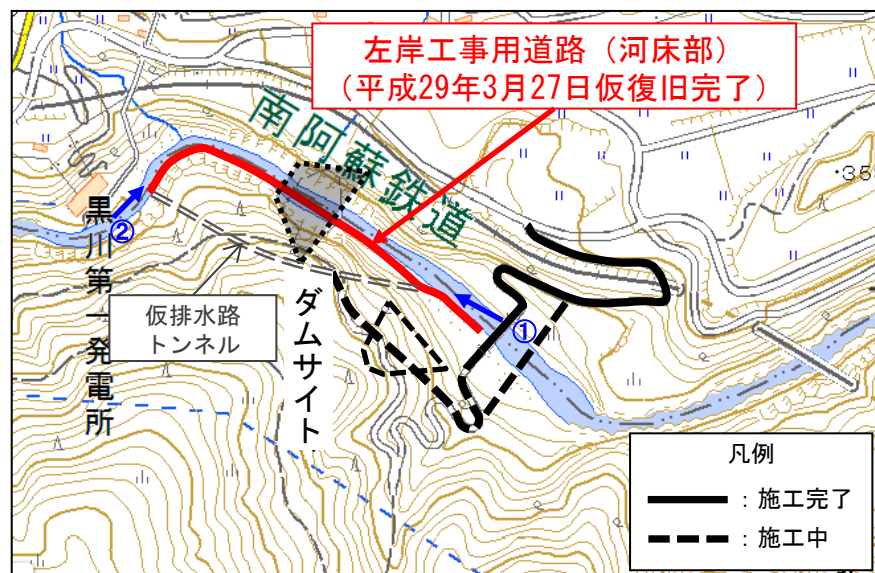
地震前の状況(H28.3)



①仮橋落橋状況(H28.7)







②左岸工事用道路（河床部）仮復旧状況(H29.4)



①左岸工事用道路（河床部）仮復旧状況(H29.4)



3-③.熊本地震後の立野ダム建設に係る 技術的な確認・評価

立野ダム建設に係る技術委員会の開催・結論

- 平成28年熊本地震後の立野ダム建設に関し、ダムサイト予定地の基礎岩盤の状況等を調査・検討し、立野ダム建設に係る技術的な確認・評価を行うことを目的として設置。
- 各分野の我が国における第一人者により、建設に支障となる技術的な課題はないとの結論。

<開催状況>

- 第1回：平成28年7月27日(水) 10:30 ～ 12:30
第四紀断層及び基礎岩盤の状況の調査・検討
- 第2回：平成28年8月 3日(水) 13:00 ～ 16:00
現地調査（立野ダム建設予定地周辺）
- 第3回：平成28年8月17日(水) 13:30 ～ 16:30
地震を踏まえたダム機能の維持、湛水予定地周辺
斜面の状況、技術的な確認・評価

※報道機関を通じて公開

傍聴を希望される方は別室でテレビ傍聴が可能



委員会状況 (H28. 7. 27)

<委員【各分野の第一人者7名で構成】>

足立 紀尚	(一財)地域地盤環境研究所 代表理事 元地盤工学会会長	ダム・地盤
岡田 篤正	京都大学 名誉教授 元日本活断層学会会長	活断層
佐々木 隆	国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川構造物管理研究官	ダム構造
佐々木 靖人	土木研究所 地質・地盤研究グループ 上席研究員	地質・地すべり
角 哲也	京都大学 防災研究所 教授	河川・ダム 総合土砂管理
千木良 雅弘	京都大学 防災研究所 教授 元日本応用地質学会会長	地すべり・地質
山口 嘉一	土木研究所 地質研究監	ダム・地質・地盤



現地調査状況 (H28. 8. 3)

○委員会の結論

- ・熊本地震後も立野ダムの建設に支障となる技術的な課題はなく、立野ダムの建設は技術的に十分可能であると考えられる。
- ・ダム完成後も、堆砂、流木、巨石及び斜面の状況について、湛水地内のモニタリングを行うとともに、その結果を踏まえ、必要に応じて土砂の掘削や流木の撤去など、適切な維持管理を実施していくことが重要と考えられる。
- ・湛水の影響を受けない斜面や湛水地より上流に位置する斜面の状況についても、関係機関等による情報の収集や監視の結果を踏まえ、湛水地への影響の把握に努めることが重要と考えられる。

立野ダム周辺における活断層の位置

○地震発生後の現地調査で、地表の亀裂を確認した結果、ダム本体建設予定地から約500m離れた位置で、既知の北向山断層に沿って、地表亀裂がダム本体には向かわず、線状に分布していることを確認。



○熊本地震後もダム基礎岩盤の性状に変化は認められず、ダム建設のための基礎岩盤として健全性に問題がないと考えられる。

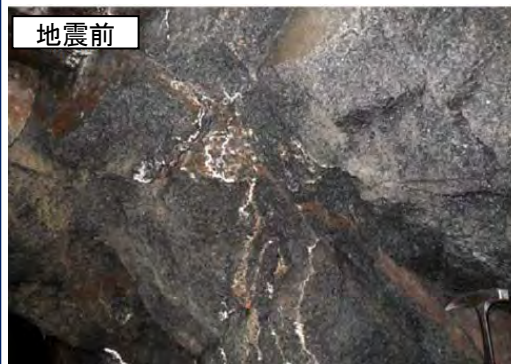


横坑の調査状況(H28.8.3)

＜ダムサイト右岸:(地震前後比較)＞



＜右岸側横坑:上流側壁面(地震前後比較)＞
(入り口より8.5m)



トレンチ調査の状況(H28.8.3)

3-④.立野ダムの 理解を深めて頂くための取り組み

理解を深めて頂くための取り組み

○熊本地震後、立野ダム周辺状況等の理解を深めて頂くための様々な取り組みを実施。

○記者発表 13回
○立野ダム事務所ウェブサイト 26回更新
○現地に説明パネルを設置 3回更新

○事務所ウェブサイトのアクセス数は1.7～2.6倍に増加
○今後の取り組みとして、事務所ウェブサイトをH29年4月14日にリニューアル予定

○現地説明 12回 参加者約200人

■現地説明の状況

H28 9/13 長野 敏也 南阿蘇村長（当時）
H28 10/4 後藤 三雄 菊陽町長
H28 10/7 家入 勲 大津町長
H28 10/14 佐藤 義興 阿蘇市長
H28 10/18 蒲島 郁夫 熊本県知事
H28 11/25 熊本県議会議員
H28 11/27 大西 一史 熊本市長 など

主な首長のコメント

○南阿蘇村長

「これからもダム事業をしっかり進めて頂きたいと思います。また、併せて村の復旧においても力添えをお願いしたいと思います。」

○阿蘇市長

「関係機関や周辺地域とも連携をとりながら、地域に親しまれるダムづくりをしっかりと進めてほしい。」

○菊陽町長

「今後も引き続き情報共有して頂き、立野ダム建設が一日も早く進むようよろしくお願いします。」

○大津町長

「今後もしっかり予算を投入して、すばらしい安全なダムを造っていただくようお願い申し上げます。今後もダム推進をしっかりと応援していきたい。」

○治水パネル展 6箇所
（平成28年11月5日～平成29年3月5日）

○立野ダム建設に係る技術委員会報告書（概要版）
21箇所で配布中（9/20～）

○立野ダム建設に係る技術委員会報告書
21箇所で閲覧中（9/26～）

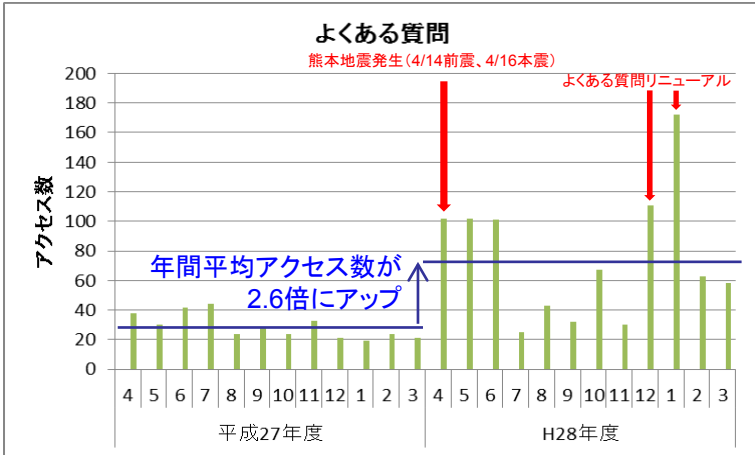
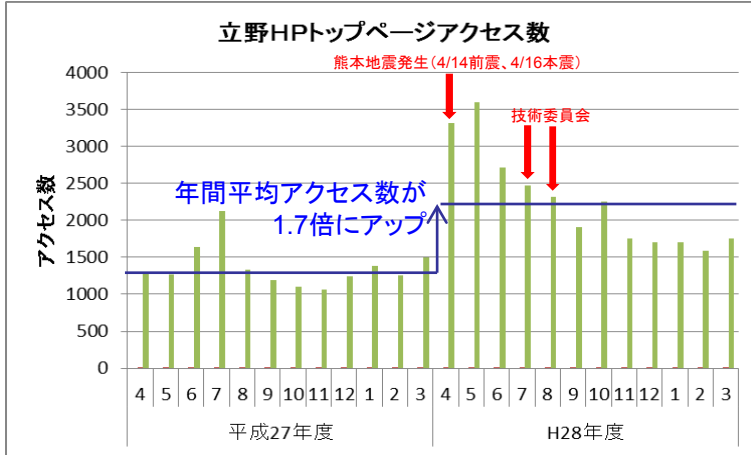
○問い合わせ窓口の設置

○展示箇所（白川地域防災センター、くまもと森都心プラザ、熊本県庁、おおづ図書館、菊陽杉並木公園管理センター、熊本市国際交流会館）

○概要版を約1,400部配布（平成29年3月31日現在）

○問い合わせ内容を踏まえて、よくある質問を更新

○熊本地震後、記者発表(13回)や事務所ウェブサイトの更新(26回)を行うことで、アクセス数が1.7～2.6倍に増加しました。



○事務所ウェブサイトをH29年4月14日にリニューアルする予定であり、引き続き立野ダム建設予定地周辺の復旧状況等を伝えていきます。



国土交通省 九州地方整備局
立野ダム工事事務所

〒861-8019 熊本県熊本市区下南部1-4-73
TEL.096-385-0707 FAX.096-387-6243



サイトマップ | プライバシーポリシー

白川について	立野ダムについて	工事の状況	環境・景観の保全
--------	----------	--------------	----------



ダム周辺の風景

(定点写真)

ダム建設現場周辺の風景の移り変わりを写真で紹介しています。

- ダムサイト周辺 (下流から)
- ダムサイト周辺 (上流から)
- 阿蘇長峰大橋周辺

ダムサイト付近 (H28. 4. 17撮影)

工事の進捗状況の分かる写真を追加

[illegible]

立野ダム周辺の定点写真（3箇所）を追加

- ・ダムサイト周辺（下流から）
- ・ダムサイト周辺（上流から）
- ・阿蘇長陽大橋周辺

○リニューアルした事務所ウェブサイト（トップページ）

○流域の市町村長や議会の議員、区長等の皆さまの現地説明会を随時開催しています。

日付	相手方	視察者	人数
9月13日	南阿蘇村	村長、職員、村議会の全ての議員の皆さま	37名
10月4日	菊陽町	町長、職員、町議会議員、区長の皆さま	38名
10月7日	大津町	町長、職員、町議会の全ての議員の皆さま	35名
10月12日	学識者	景観、環境保全等に関する学識者の皆さま	3名
10月13日	学識者	景観、環境保全等に関する学識者の皆さま	1名
10月14日	阿蘇市	市長、職員の皆さま	3名
10月18日	熊本県	知事、職員の皆さま	6名
11月15日	学識者	阿蘇火山博物館学術顧問	1名
11月25日	熊本県	建設常任委員会の全ての議員、阿蘇郡市選出県議会議員、職員の皆さま	18名
11月27日	熊本市	市長、職員の皆さま	9名
12月7日	学識者	景観、環境保全等に関する学識者の皆さま	7名
12月10日	一般	熊本青年会議所等の皆さま	約50名



熊本県知事への現地説明



熊本市長への現地説明

○治水パネル展（平成24年7月九州北部豪雨災害から5年間の歩み）において、立野ダム必要性や効果等についてご理解いただくため、立野ダムに関するパネルを展示しました。

日付	場所
11月5日 ～ 11月18日	白川地域防災センター
11月7日 ～ 11月18日	くまもと森都心プラザ
11月7日 ～ 11月11日	熊本県庁
11月23日 ～ 12月1日	おおづ図書館
12月5日 ～ 12月16日	菊陽杉並木公園管理センター
3月5日	熊本市国際交流会館



熊本市国際交流会館の展示状況



熊本県庁の展示状況